

本委員会における「気候安全保障（Climate Security）」の検討の背景等

●背景

- ◎ 気候変動は、人の健康、食糧、水資源、（沿岸等の）居住地、生態系などに影響を及ぼし、国家の要素たる国民、領土に対する脅威である。また、影響の現れ方は不均一であり、国際社会における経済、ひいては平和に対する脅威でもある。
- ◎ 昨今、「気候安全保障（Climate Security）」という言葉が、英国（ベケット外相やアシュトン気候変動特別代表）中心に多用されている。アン前国連事務総長も、ナイロビでの会議で気候変動問題を「あらゆる分野に対する脅威」と述べた。

■検討の目的

- ◎ 温室効果ガスの排出を通じた気候系に対する人為的な干渉による気候変動問題は、もはや単なる「環境問題」としてではなく、「安全保障」の問題として捉え、最重要課題として解決に向けた国内外の取組の加速化を図る。
- ◎ 今後の国際交渉の様々な場面において、「気候安全保障」の用語・概念を広く用い、気候変動対策の重要性と緊急性に関する認識の拡大を図る。
- ◎ 「気候安全保障」の認識拡大と意識改革を図る：
 - ・我が国政治リーダーによるトッププライオリティーとしての認識を形成
 - ・政府部内での用語として定着
 - ・国内世論の形成に活用
 - ・各国の政策における最重要課題としての位置付けを促進（特に米国の態度転換を誘導）

■検討の基本的な進め方

- ◎ 国際政治学における安全保障論等の専門家からのインプットも受け、気候変動問題をクライメート・セキュリティ（気候安全保障）として捉える上での考え方や留意点等を分析、整理し、その定義等についてとりまとめる。

■アウトプット

- ◎ 報告書としてとりまとめ、2007年における気候変動の国際交渉やG8対話に当たって基本的なスタンスとして活用。
- ◎ 報告書は公表とし、政府部内、マスコミ等への情報提供を積極的に行う。
- ◎ 「気候安全保障」というキーワードは、G8日本サミットにおける気候変動問題のハイライトとして前面に押し出す。

■アウトカム

- ◎ 今後、首脳外交や政財界のリーダーが様々な場においてこのキーワードを用い、気候変動を各国のトッププライオリティーへと誘導する。

■検討作業の概略（具体的には、[資料3-3]参照）

回数	時期	内容
第1回	2月20日	<ul style="list-style-type: none"> ・背景説明（気候安全保障のハイライト） ・地球温暖化により起こりうる悪影響に関する研究結果（IPCC報告書、スターン・レビューなど） ・委員からのプレゼンテーション①（環境安全保障論）
第2回	3月中旬	<ul style="list-style-type: none"> ・安全保障の概念についての整理 ・気候変動を安全保障問題として位置付けるに当たっての考え方等 ・委員等からのプレゼンテーション②（国家安全保障論）
第3回	4月中旬	<ul style="list-style-type: none"> ・「気候安全保障」についての考え方や定義の分析・整理について第1回及び第2回の議論の集約 ・報告書（案）の提示